

## 巻頭言

院長 遠藤 一 靖

仙台市立病院医学雑誌第28巻が刊行され、院内各部門で研鑽された内容が17編の論文として掲載されました。刊行まで関係された方々に深謝いたします。

当院では今年度15名の新人研修医、そして他院で初期臨床研修を終了した3名を加えた9名の後期臨床研修医を迎えています。若い医師の病院での研修法には多くの手段がありますが、見て、聞いて、実践して、確認し、そして記録として残すことで、この最終の課程は個人の財産となる非常に大切な作業です。この意味でも初期臨床研修医、後期臨床研修医の諸君には常勤医、コメディカルスタッフと共に本医学雑誌に積極的に投稿し、活用するよう望んでいます。

5月12日から13日にかけて3回目の病院機能評価を受審しました。院内各部署の皆さんの多大なご協力、ご尽力を得て無事終了し、ほっとしているところです。審査最終日の講評ではいくつかの指摘を受け、最終的な審査結果を待つ段階になりました。この機能評価では、前回のVer.4に比して今回のVer.5では全体的に求められるレベルが高くなり進化しています。特に、第4領域「医療の質の確保」、第5領域「医療の質と安全のためのケアプロセス」では医療の質の確保がより具体的に提示することが強く求められるようになりました。今まで以上に診療科別、疾患別での生存率、死亡率、疾患の治癒率や改善率などを明確にすることが必要であり、さらにこれら臨床指標（Clinical indicator）をより明確に数量化して公表することが求められるようになってきました。今回の受審でも各診療科に診療した症例数、症例分布、治療成績などの臨床指標をまとめていただいたところ、各診療科でその内容に多少の差異はあったものの前回よりも充実した当院の診療実績、実力をよく把握できるものになりました。今後も医療の質の向上の取り組みは継続していかなければなりませんので、何らかの形で当院の臨床指標を医学雑誌などに公表できればと考えています。

この数年間、国は経済低迷や人口構造の変化などを理由に医療費抑制政策を進め、医療構造の“ひずみ”が顕在化しています。このような厳しい医療環境の下、当院では総務省の「公立病院改革ガイドライン」や、4月よりの後期高齢者医療制度、県単位の医療計画、医療費適正化計画、地域連携パスなど、多くの課題を抱え対応が迫られています。医療界、特に地域病院の苦悩、奮闘の声がようやく国政レベルで取り上げられつつありますがまだまだ満足のものではありません。当院が今後充実し発展していくためには、自助努力により経営体質をより強固なものとすること、組織の活性化を推進することはもちろんですが、それ以上に病院の最も基本的な機能である病院独自の“質の高い医療”を構築することが重要な取り組みになります。

その点、本院医学雑誌は医療の質の向上、学術的活動の活発化のためにも役割は非常に大きなものがありますので病院を挙げて大切に育てていきたいものです。